

平成28年10月4日（火）に、ホテルグリーンタワー幕張にて、平成28年度千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議シーズ発表会を開催しました。参加者は84名で、アカデミア、バイオ関係、ものづくり関係、公的研究機関、サービス・金融関係、臨床検査会社、代理店、理科学機器メーカー等、バラエティーに富んだ方々にご参加いただきました。

1 シーズ発表会

「千葉県におけるゲノム医療実現に向けて」をテーマとして、以下の3つの課題について事例報告会を行いました。

(1) 「日本医療研究開発機構の現状と展望」

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 執行役 菱山 豊 氏

昨年4月に設立された日本医療研究開発機構の設立の背景、組織の概要、役割、得られた成果とともに、ゲノム医療の実現に向けた政府の取り組みや研究開発支援の現状や目指す方向性についてご紹介をいただきました。



(日本医療研究開発機構 執行役 菱山 豊 氏)

(2) 「ゲノム療の社会実装：かずさDNA研究所での取組み」

かずさDNA研究所 小原副所長

DNA解析に特化して設立されたかずさDNA研究所が、これまで蓄積されたゲノムリソースや技術的なノウハウをどのように医療ネットワークの中で活かそうとしているかについて紹介しました。



(かずさDNA研究所 小原 収 副所長)

(3) 「がんの層別化とゲノム情報」

千葉大学大学院医学研究院 分子腫瘍学 教授 金田 篤志 氏

癌はゲノム異常・エピゲノム異常の蓄積により発症し、その蓄積した分子異常の特徴により癌は層別化することが可能となります。

異なる病因により異なるエピゲノム異常を蓄積した各サブタイプは、発癌に要求されるゲノム異常も異なっており、それらの異常を標的に用いて、癌診断や癌治療の開発に関して、ご紹介をいただきました。



(千葉大学大学院医学研究院 分子腫瘍学 教授 金田 篤志 氏)

3 まとめ

参加者の皆様からは、“研究支援産業としての位置づけを再認識しました”、“千葉県から発信していく点、社会実装に係る研究の見方に大変感銘しました”等々の反響をいただき、盛況のうちに終了することができました。



(情報交換会)